

宝石

12



中曽根-鹿島一族、竹下・金丸-竹中一族、
安倍・岸-長州閥、宮沢-官僚グループ

日本を支配する政・財・官、四大「血脈」

無冠のミッチーが秘かに狙うもの

企業対決ルボ
クロネコ・ヤマトVS.日通・ペリカン便
やうしきよしさんま、三枝...
お笑い軍団「吉本興業」の秘密
攻撃型ビジネスマンを襲つて心身症
円高不況にボーナスを生かす
お買い得◎商品情報



No. 250 (1/1)

あの「日韓トンネル」ついに着工！ 中曽根サンの祝電も届いて……

「壮大な人類の夢」か「人騒がせなホラ話」なのか——この十月一日、佐賀県鎮西町で日本と韓国を海底トンネルで結ぼうという日韓トンネル計画の調査斜坑の起工式が地元町長や関係者が出席してニギニギしく行なわれた。式典には、自民党中曽根康弘総裁、竹下登幹事長からの祝電が寄せられたりした。

一般マスコミでは全く無視された式典だが、話のスケールはでかい。「国際ハイウエイ構想」と呼ばれる同構想は、八一年十一月、ソウルで統一協会(世界基督教統一神霊協会)の教祖である文鮮明師が提案したもので「人類は一家族であるという理想を実現するために、日本と韓国とをトンネルで結び、いずれは日本、韓国、中国を連結し、

さらに中国本土、南アジア、中近東、そしてソ連、ヨーロッパをハイウエイで結ぶ」というもの。このうち最大の関門である日韓トンネル計画は、具体的には、九州の佐賀県松浦郡呼子町から宍岐、対馬、韓国の巨済島を経由して韓国釜山までつなぐというもの。海底トンネルの長さは約二三五キロに及ぶがこれは青函トンネルの約四倍の長さ、総工費は数十兆円といわれボーリングの調査、音波探査その他の準備費だけでも数百億円かかるという超大型プロジェクト。

八二年四月に「国際ハイウエイ建設事業団」(梶栗玄太郎理事長を設立、八三年五月には「日韓トンネル研究会」が結成され、青函トンネルの技術顧問をつとめた佐々保雄北海道大学名誉教

授が会長として技術的な検討に当たることになった。その後も地元事務所を開設したり、調査船を買い込み、地質調査を進めるほど精力的で、地元でも「もしかしたら」との声があがるほど。

実際に同構想を進めているのは集団結婚式や高麗人参茶売りなどで、なにかと注目を集めている宗教団体の統一協会。関係者も同教団の幹部と系列の政治団体である国際勝共連合の幹部ばかり。同教団の内情に詳しい事情通は「あそこは大変な金持ち、韓国では五十大財閥の中に入っているほど。日韓トンネル構想は、彼らのあたらしい商売のネタ」と話す。青函トンネルは完成したとたん膨大な赤字を生み続ける「世紀の無用の長物」となったが、壮大な日韓トンネル計画の前途はいかん。